

## 令和5年度 学校経営報告

八王子市立船田小学校  
校長 平田 英一郎

### 1 はじめに

新型コロナウイルス感染症も今年度5月に5類に移行され、今年のテーマは「(必要な指導内容は) コロナ禍前に戻す!」として臨んできました。移動教室や運動会などコロナ禍の影響を色濃く受けたものを例年通りに戻す年でした。さらに、異常気象から熱中症対策と言う新たな課題が現れ、急きょ日程変更を行いました。「子どもたちの安全」ということで多くの方からご理解・ご支援をいただきました。

また今年度は創立50周年の記念の年でした。学校を挙げてお祝いに取り組むことができました。横断幕から始まり、航空写真撮影、記念Tシャツづくり、フネダンチャレンジ、記念誌づくりや記念式典など、子どもたちも先生方もPTAの役員も地域の方も、卒業生や以前の教職員も参加してくださいました。皆さんでお祝いすることができた思い出深い式典、記念の年となりました。

今年度は「今の自分が好き」と思えるように行動しようを合言葉として、「今できるベスト」を考え行動できました。そのことで子どもたちの自己肯定感の育成がいっそう図れたと考えます。教職員も「チーム船田」として一丸となって取り組み、絆意識が高まったと自負しています。

次年度以降も「今できるベストの教育」を船田小学校は目指し、「できるかできないかではなく、どうやったらできるか」を考え、「時間がかかっても実現すべきことは粘り強く努力を続け」保護者・地域・学校が一つとなり子どもたちのその可能性を追求できる環境を整えていきたいと思えます。

教育委員会・保護者・地域の皆様のご理解とご協力に、この場をお借りして心からの感謝を申し上げます。

- 2 目指す学校
- 子どもたちが「学びたくなる学校」
  - 保護者が「通わせたくなる学校」
  - 地域が「誇りに思う学校」
  - 教職員が「勤めたくなる学校」
- として1年間取り組んだ。

### 3 令和5年度の取組目標と方策(本年度の達成課題)(・印 = 新規・改定)

#### (1)子どもたちが「学びたくなる学校」

- ・ ①特別な支援が必要な子どもたちへの指導・対応(学校サポーター等の活用)  
→計画的に行えた。配置できない日は教員で補教を付けるなど工夫した。
- ・ ②分かる授業・落ち着いた学習を進める。(めあての明確化、船田タイムの活用)  
→船田タイムの習熟度別学習を昨年度以上に改善して実施することができた。
- ・ ③体力向上・保健指導・食育など、総合的に健康教育を推進することで、生涯にわたり心身ともに健康な生活を送るための基礎を培う。(体育的活動、検診時の保健指導、食育)→計画的に行えた。
- ・ ④交通事故0 いじめ0 不登校0 を目指す。  
→いじめ対策委員会を毎週行い情報交換を行えた。いじめに対する必要な対応を行った。不登校対策ではSSWや教育センターなど外部機関と連携し、少しずつ成果が現れてきている。

⑤縦割り班活動のさらなる充実を図る。年間を通して活動を行う。

→今年度も有効だった。

⑥一人一台端末の有効活用を引き続き行っていく。

→オンラインの朝会、授業での活用、一部では委員会やクラブでも活用できた。

## (2)保護者が「通わせたい学校」

①学級の荒れ0 体罰0 服務事故0

→荒れ0、体罰はなかったが不適切と思われる言葉かけについては話し合ったり指導したりした。服務事故に関しては名簿の誤廃棄があった。対策を取り以後再発防止に留意する。

②保護者からの苦情対応を的確に行う。

→保護者・近隣住民の方からいただいたものは、貴重なご意見・情報提供と考え、真摯に対応できたと考える。

→子どもの安心・安全な居場所づくりとして「朝フネダー」を始めることができた。

③国（6年）市（4～6年）各学力調査で、市の平均点以上を目指す。

→複数学年で国・市の平均以上となった教科があった。何より、スモールステップで丁寧に学習を進めたこと、落ち着いた学習環境、自己肯定感の高まりなどから学力の向上が見られた考える。

④「タブレットが重く、持ち帰りが大変」について対応を検討していく。

→1年生では「持ち帰らなくても良い日」を設定。学校において帰る荷物もさらに検討した。

## (3)地域が「誇りにしたくなる学校」

①学運協、町会・自治会等とのスムーズな連携を行う。

→町会・自治会とは学校便りの配布を始め、校長・副校長が窓口となりいっそうの連携が行えたと自負している。学運協のみなさんと、協働し参画いただいて、さまざまな企画を通して「船田小の子どもたちのための教育」が行えた。

②地域教材や人材の活用 子どもたちの生活に根ざした学習活動を取り入れる。

→地域の探検、職場・施設見学、どんぐり拾いや植樹など、この地域ならではの活動を行った。新たな地域人材を活用したキャリア教育も行なえた。

③地域から愛され「応援したくなる学校」を目指す。

→応援「していただける」から、一歩進んで「したくなる」学校を目指した。周年行事前の清掃やおむすび大作戦のボランティアなど着実に信頼は深まっていると考える。

## (4)教職員が「勤めたい学校」

①働き方改革の一層の推進を行う。

→行事の精選、見直しを通して推進した。

②もしもの時のサポート体制がとれる学校。今まで以上に「チーム船田」を目指す。

→「お互い様」はもちろん「リスペクト（大切に思う）」から「助け合い支え合う関係」が構築できた。

③校内研究の充実。公開授業を見合う機会を設ける。

見せ合い学び合い、ともに成長し、ともに達成感を味わい絆感が深められる学校。

→若手教員を主な対象に OJT 研修を行えた。研究授業を行い全職員で研修することができた。

④努力が報われ、すぐに結果は出なくとも「努力は裏切らない」と信じられる学校。

→参考になる意見であれば経験や年数にこだわらず学校運営に取り入れた。

引き続き校長・副校長による評価を的確に行う。